

宇陀・葛城・五條・吉野

ぼんちより南らん

残り 32 問!

奈良通に
なれるかも



Q & A

Q113

三重県境に近く、秋はススキが美しいこの高原。さて、どこの高原でしょうか。



Q114

写真にあるのは鎌倉時代に造られたという本殿（国宝）。水神様を祀り、勇壮な秋祭りでも知られる宇陀市のこの神社は、何神社でしょう。



Q115

「ひむがしの 野にかぎろひの 立つ見えて かへり見すれば 月傾ぬ」と詠んだのは誰でしょうか。

Q116

県で2番目に国の重要伝統的建造物群保存地区になった宇陀市のとある地区。吉野葛などの産地と知られたこの城下町は、さて何城の城下町？

Q117

樹齢900年を越える県指定天然記念物である宇陀市の「千年桜」。門前の参道にまで枝を垂らしています。さて、この桜はどこのお寺にあるでしょう。

Q118

宇陀郡曾爾村には、そのかたちから「屏風岩、兜岩、〇〇」と呼ばれる大断崖があります。〇〇に入る言葉をお答えください。

Q119

空海が持ち帰り、弟子によって現在の宇陀市の山中に種が植えられたと伝えられる奈良の特産品。この農産物は、さて何？

Q120

シャクナゲで知られる宇陀市のお寺。ここにもっとも可憐な木塔ともいわれる平安時代初期に造られた五重塔があります。さて、何というお寺でしょう。

A113

そにこうげん
正解は 曾爾高原

曾爾高原は、宇陀郡曾爾村の東端にある倶留尊山と亀山峠の西麓に広がる高原です。標高約700～800m、広さ約40haもあり、春から夏は緑の大草原を、秋は金銀に光るススキの大群落を見わたすことができます。特に穂が開く10月下旬から11月は美しい夕景が楽しめます。

高原の中央部にはひょうたん型のお亀池があります。池とはいっても湿地になっており、希少な高原植物、湿地植物の宝庫。池の周りには高低差のほとんどない周遊路が設けられ、ぐるりと散策を楽しむことができます。また夏から初秋は「山灯りイベント」も行われ、池の周りに点々と灯りがとまり、うっとりするような幻想的な雰囲気を楽しめます。

A114

うだみくまり
正解は 宇太水分神社

宇陀市菟田野にある宇太水分神社。水源を象徴し、水を分配する水神・天之水分神と、速秋津彦命、国之水分神の3柱を祀っています。本殿は3棟が一直線に等間隔に並んだ「水分造り」で、連結社殿の源流を示すほどに古いもの。元応2年(1320)に造られたとされる国宝です。また、摂社の春日神社・宗像神社の本殿も重要文化財。墓股に施された色彩豊かな美しい彫刻は必見です。

毎年10月第3日曜に行われる例大祭の別名は「うたの秋祭り」。宇陀市内の惣社水分神社の姫神・速秋津姫命が、宇太水分神社の男神・速秋津彦命に会うために往復12kmの道のりをお神輿で渡御します。年に1度しか会えない2人の神様のために、人々は時代装束を身につけ、大名行列でお供をします。



A115

かきのもとのひとまる
正解は 柿本人麻呂

「かぎろひ」とは、厳冬のよく晴れた日の、日の出の1～2時間前に、東の空に現れる最初の陽光のこと。

この歌は軽皇子の狩猟の相伴として出かけた人麻呂が、早朝の雄大な風景を詠んだものです。

歌が詠まれたのは現在の宇陀市大宇陀といわれます。このあたりは古代には「阿騎」と呼ばれ、奈良と吉野、伊勢方面を結ぶ交通の要衝の地でした。また、飛鳥時代には宮廷の狩場としても使われたといわれます。

柿本人麻呂は、天武・持統朝を中心に活躍した歌人です。その歌は華やかな技法を駆使しながらも重厚な響きをもち、のちに山部赤人とともに歌聖とも呼ばれました。

A116

正解は 宇陀松山城

宇陀松山城は、宇陀市大宇陀にかつて存在した要害堅固な山城です。南北朝時代に秋山氏が築き、豊臣配下の有力武将が相次いで入城、元和元年（1615）には織田信長の次男信雄が藩主になり、丹波国柏原への国替えまで織田氏の藩政時代が続きま

ました。現在は城郭跡には石垣だけが残っていますが、城下町の要の西口関門は往時を偲ぶ唯一の建物。城跡とともに国の史跡に指定されています。

松山は交通の要所でもあり、宇陀紙や吉野葛などの特産物を活かし、商業の町として発展しました。現在見られる町割りは慶長5年（1600）に入部した福島孝治によって整備された町割りがもと。江戸時代から昭和にかけての建物が軒を連ねた歴史的景観は、平成18年（2006）に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

A117

ぶつりゅうじ

正解は 佛隆寺

宇陀市^{はいばら}榛原の佛隆寺は、嘉祥3年(850)に空海の弟子である堅恵^{けんゑ}が建立したといわれる真言宗室生寺派のお寺。門前に大きな枝を広げる桜はモチヅキザクラの1種で、県下最古の樹齢900年といわれる巨木です。県の天然記念物に指定されており、春は花見客で賑わいます。

境内には、横穴式石室^{ひょう}によく似た「堅恵の廟」と呼ばれる榛原石で築かれた立派な遺跡があり、これは重要文化財に指定されています。

寺は堅恵以前に、興福寺の別当^{べっとう}であった修円^{しゆえん}が建立したという説もあり、境内には修円の墓といわれる十三重石塔も建っていますが、実際は元徳2年(1330)に建てられたものだということがわかっています。参道にある階段は全部で197段あり、県下でも美しいことで知られています。

A118

よろいいわ

正解は 鎧岩

奈良と三重の県境にある倶留尊山^{くろぞやま}。この山から噴出した安山岩を、青蓮寺川^{しょうれんじがわ}が年月をかけて浸食してつくりだしたのが「屏風岩、兜岩、鎧岩」^{びょうぶいわ かぶといわ}と呼ばれる^{そに}曾爾村^{だいだんがい}の大断崖^{ちゆうじょうせつり}です。柱状節理のおりなす特殊な美観から、国の天然記念物に指定されました。ちなみに節理とは岩石に見られるやや規則的な割れ目のこと。

もっとも西にある屏風岩はその名の通り、屏風を立てたかのように^{きつりつ}屹立した断崖が続いています。その東にある兜岩は武者の兜のような山容から、もっとも東にある鎧岳は鎧を着たような雄々しい姿であることから、それぞれ呼び名がつけました。

屏風岩の麓^{ふもと}の屏風岩公苑^{こうえん}からは、天をつくような険しい岩肌を背景に、桜やツツジ、紅葉といった四季の素晴らしい景勝を楽しむことができます。



正解は お茶

日本におけるお茶の歴史は、奈良時代までさかのぼることができます。天平元年(729)、聖武天皇のとき「宮中に僧を召して茶を賜った」との記述が、記録に残るはじめてのものといわれています。

お茶の栽培は、大同元年(806)、遣唐使として大陸に渡った空海が種子を持ち帰り、弟子の堅恵が佛隆寺に種をまいたのがはじまりといわれます。佛隆寺には、「大和茶発祥伝承地」の石碑が建てられています。

茶道を確立した村田珠光むらたじゆ(しゆ)こうゆかりの称名寺(奈良市)、徳川家綱の茶湯指南をつとめた片桐石州かたぎりせきしゅうゆかりの慈光院じこういん(大和郡山市)、伝統工芸品の茶釜ちやせん(生駒市)など、茶道ともつながりの深い奈良。奈良市の社寺や茶室を舞台に、毎年2月には奈良大茶会「珠光茶会」も開催されています。

正解は 室生寺

宇陀市室生にある室生寺えんのぎょうじやは、役行者が開き、空海が再興したお寺とも、近くにある室生龍穴神社りゅうけつの神宮寺じんぐうじとして開かれたともいわれています。また、女人禁制の高野山に対し、古くから女性に開かれており、「女人高野」とも呼ばれています。

南都から離れた山中にあり、兵火を受けずにすんだため、室生寺には国宝や重要文化財に指定される仏像や建築物が枚挙にいとまがないほど残されています。もっとも可憐な木塔として知られる五重塔は、平安時代初期に建てられたもの。本堂から塔までをつなぐ石段は、春になるとシャクナゲが両脇を囲むように咲き乱れ、塔を彩ります。

桜や紅葉の名所でもある室生寺。静かな山寺と自然の調和がおりなす美しさを求めて、例年多くの参拝者が訪れています。

Q121

写真とはある有名な人物が飼っていたといわれる犬をモデルにして誕生した北葛城郡王寺町のご当地キャラです。その飼い主とは誰でしょう。



Q122

写真の大砲が奉納され、お正月には尺八などの演奏が奉納される葛城市の神社といえば、どこでしょうか。



Q123

葛城市にあるこのお寺のご本尊は曼荼羅で、日本で唯一、創建当時の姿の東西双塔が現存します。何というお寺でしょうか。

Q124

平安時代の高僧で『往生要集』の著者・恵心僧都の生誕地に建てられたといわれる香芝市のお寺は、何というでしょう。

Q125

當麻に伝わる中将姫伝説。この伝説を題材に、『死者の書』という小説を発表した学者がいますが、それは誰？

Q126

近年整備されて、古墳築造当初の姿を見学できるようになった北葛城郡河合町の古墳といえば、何でしょう。

Q127

日本各地に伝わっているかぐや姫伝説。奈良県内でかぐや姫の里といわれている市町村といえば、さてどこでしょう。

Q128

2月11日の砂かけ祭で知られる河合町の神社といたら、さて何神社？

正解は 聖徳太子

写真のキャラクターは、王寺町のご当地キャラ「雪丸」。推古天皇の摂政として活躍した聖徳太子が飼っていたという伝説の犬「雪丸」をモチーフにして、平成25年(2013)に誕生しました。

伝説の犬・雪丸は飼い主に似てとても賢く、人の言葉を話し、お経を理解できたと言い伝えられています。同町の達磨寺には、雪丸像も祀られており、お寺や周辺には聖徳太子に関する伝説がいくつも残されています。

王寺町のご当地キャラ雪丸は、まっしろな毛並みとぷにぷにの肉球、そしてうるうるした大きな瞳がチャームポイント。ほのぼのした見た目がなんともいえずキュートです。王寺町を訪れば、さまざまなところで雪丸に出会えるはず。町の広報大使として日夜活躍しています。

正解は かつらきにいますほのいかづちじんじゃ 葛木坐火雷神社 ふえふき (笛吹神社)

葛木坐火雷神社は通称「ふえふきのむらじ 笛吹神社」と呼ばれ、笛吹連一族の本拠地と伝えられています。もとはほのいかづちのおおかみ 火雷神を祀る火雷神社と、あめのかぐやまのみこと 笛吹連一族の祖神である天香山命を祀る笛吹神社の2社が1つになったものといわれています。

笛・音楽の神様としても知られ、毎年正月には、フルートや尺八の奉納演奏が行われています。

本殿の西には笛吹神社古墳があり、一族の祖の古墳と伝えられています。

境内にある大砲は、日露戦争の戦利品として明治42年(1909)に奉獻されたロシア製の「加農攻守城砲」。苔むしたあかがね銅色が歴史を感じさせます。

また、境内にはイチイガシの木が群生しています。鳥居の右側には、周囲3mの県指定天然記念物イチイガシの巨木があり、こちらも見事です。



A123

正解は ^{たいまでら} 當麻寺

當麻寺は推古天皇 20 年 (612)、聖徳太子の弟である麻呂子親王まろごしんのうの創建といわれる古寺で、金堂、講堂、東西の三重塔など数々の建造物が残っています。

双塔をなす東塔と西塔の 2 基の三重塔（国宝）は、日本で唯一近世以前に建立した東西両塔が現存する例として、非常に貴重なものです。

天武天皇 13 年 (684) に百済くだらの恵灌えかんが導師となって落慶法要が行われた當麻寺。創建当時は三論宗さんろんしゅうでしたが、平安時代に真言宗となり、鎌倉以降は阿弥陀信仰が加わりました。當麻寺には中将姫伝説が伝わり、中将姫が蓮の糸で織り上げたという「當麻曼荼羅」は極楽浄土ごくらくじょうどの教えが描かれた大画幅がふく。「根本曼荼羅」と呼ばれる當麻寺の本尊です。国宝曼荼羅堂ずしの厨子には、室町時代に転写された當麻曼荼羅が祀られています。

A124

正解は ^{あにちじ} 阿日寺

阿日寺は、平安中期の天台宗の高僧、源信げんしんゆかりのお寺。阿日寺という寺名は、親孝行の源信が母のために阿弥陀如来像を、父のために大日如来像を本尊としたことからつけられたといわれています。阿弥陀如来像は無病長寿、安楽往生に靈驗あらたかな仏で、「ぽっくりさん」として親しまれています。

源信は、比叡山横川よかわ恵心院に住んだことから「恵心僧都」と呼ばれた天台宗の高僧で、浄土教の基礎となった『往生要集おうじょう』を著しましたようしゅう。このなかで念仏を積んだものは極楽浄土に迎えられると説いています。

本堂らんまの欄間には雲に乗って迎えにくる二十五菩薩来迎のようすが刻まれています。

毎年 7 月 10 日には恵心僧都の遺徳を偲ぶ法要「恵心忌大法要」が営まれます。

おりくちしのぶ
正解は 折口信夫

一夜にして一丈五尺（約4 m四方）もの蓮糸はすいとの曼荼羅まんたらを織り上げたという中将姫の不思議な伝説。能や歌舞伎、御伽草子など、芸能や文学の格好の題材になってきました。

大正から昭和にかけて活躍した民俗学者で国文学者の折口信夫は、釋迢空しやくてうくうの号で知られる歌人です。『死者の書』は昭和14年（1939）に「日本評論」に掲載され、その後大きく加筆されて、昭和18年（1943）に出版されました。

埋葬された大津皇子おおつのみこの目覚めからはじまり、やがて藤原南家の郎女いらつめとの間に起こる時空を超えた交感の物語です。難解ですが、冒頭の、死者である大津皇子の目覚めの場面は、なんともいえず幻想的。独特の擬音語など美しい日本語表現も味わい深い名著です。

正解は ナガレ山古墳

ナガレ山古墳は、河合町佐味田さみだにある馬見古墳群中央群に属する古墳です。全長105 mの前方後円墳で、築造は5世紀はじめ頃と考えられています。

古墳の前方部からは埋葬施設である粘土槨ねんどかくが出土しました。そのほかにも、くびれの部分からは石製模造品や家形かこいがた、罎形きぬがさがた、蓋形といった形象埴輪かみいしが見つかっています。

この古墳の面白いところは、発掘調査の結果をもとに、墳丘の復元工事が行われ、古墳がつくられた当初の姿を見学できることにあります。古墳といえは草が生い茂った小山を想像しますが、復元されたナガレ山古墳には葺石ふきいしがふかれ、墳丘をめぐるように整然と円筒埴輪が並べられています。古墳のスケールの大きさや、造成が人の手によるものだったことがよくわかるようになっていんです。



A127

正解は 広陵町

「かぐや姫」の名前でよく知られる『竹取物語』は、遅くとも10世紀半ばには書かれていたといわれています。しかしその物語の故郷はどこか、いまもわかっていません。諸説ありますが、広陵町がかぐや姫のふるさとなのでは? …ともいわれています。

かぐや姫に求婚する5人の貴族たちの名前や官職を見ると壬申の乱に関わった人々をモデルにしており、舞台が大和であった可能性は充分にあるといわれています。

また、竹取翁の名は正確には「讚岐造」といいます。讚岐村の長であった讚岐氏の人という意味で、その讚岐氏を祀った讚岐神社は広陵町にある同名の神社だとも考えられています。付近には竹に関する地名も残っています。そのため広陵町では毎年中秋の名月の日に「かぐや姫まつり」が催されています。

A128

正解は 廣瀬神社

廣瀬神社の建つ地は、飛鳥川や曾我川など、奈良盆地を流れる多くの川が合流し、古くから河川の氾濫や干ばつに苦しんできたところ。そのため、廣瀬神社は水の神として、またこの地の農業の守り神として信仰を集めてきました。

砂かけ祭として知られるお田植え祭（おんだ祭）は、拝殿でのお田植え神事が終了後、牛役や田人などが太鼓の音を合図に、見物人に砂をかけまくるというものです。

ここでかけられる砂は、じつは雨に見立てたもので、五穀豊穡や厄除け祈願、田畑に恵みの雨を降らせてくれることを祈って行います。

当日は問答無用の豪快な砂かけが行われますので、見学時はカメラにビニールをつけ、砂よけのレインコートを持参するのがオススメです。

Q129

1月14日夜、五條市大津町の念仏寺では、写真のように室町時代から500年以上も続く火祭りが行われます。何と呼ばれるお祭りでしょうか。



Q130

吉野郡東吉野村にあるこの山には、山頂に万葉歌碑があり、冬期は霧氷も見られます。何という山でしょうか。



Q131

五條市から和歌山^{しんぐう}県新宮市に至るルートで予定されていましたが、工事が中断してしまったのは、何という路線でしょう。

Q132

奈良県の三大梅林といえば、「月ヶ瀬梅林」「広橋梅林」…あと1つは、さて何梅林？

Q133

五條市の桜井寺には、〇〇組が襲撃した五條代官、鈴木源内の首を洗った水盤があります。さて、〇〇に入る言葉をお答えください。

Q134

吉野郡下市町のご当地キャラ「ごんたくん」は、とある歌舞伎の演目に登場する架空の人物「いがみの^{ごんた}権太」がモデルです。さて、その演目名とは？

Q135

秋の七草の1つで、8月のお盆の頃に咲きはじめるとある多年草。主にこの根を利用して作ったものは吉野・宇陀地方の特産品です。さて、その植物とは何でしょう。

Q136

吉野にあるこの神社は、源義経や豊臣秀吉にゆかりがあり、後醍醐^{ごだいご}天皇が南朝の元宮^{もとみや}を置いた場所でもあります。さて、何神社でしょう。

A129

だだとう
正解は 陀々堂の鬼走り

五條市にある念仏寺陀々堂の鬼走りは500年もの伝統を誇る炎の祭典。過去の罪を悔い、身に積もった汚れを祓う修正会の結願として行われます。午後から行われる大船若経転読と昼の鬼走り、福餅まきに引き続き、21時から堂内で鬼走りがはじまります。

まず火天役による「火伏せの行」がはじまります。水天役は笹竹で水をかけて火を消して回ります。法螺貝と太鼓の音が響き渡るなか、約60kgの燃えさかる松明を振りかざす鬼が3匹現れ、松明を持った鬼がお堂を焼き尽くさんばかりに豪快に走り回りまわって、住民の災厄を払います。(昼の鬼走りでは、鬼は松明を持っていますが点火はされません)

鬼が幸いをもたらすのは全国でも珍しく、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。

A130

たかみ
正解は 高見山

奈良と三重の県境にそびえる高見山。標高は1249m、尖った山容から関西のマッターホルンと呼ぶ人も。南の山麓には伊勢南街道が通り、紀州徳川藩が吉野川に沿うこの道を利用していました。高見山と大台ヶ原を結ぶ山々は、台高山脈と呼ばれています。

『万葉集』で石上麻呂が詠んだ、「吾妹子をいざみの山を高みかも大和の見えぬ国遠みかも」の「いざ見の山」が、この高見山ではないかといわれています。山頂には、神武天皇の東征の折に、道案内をつとめたという八咫鳥を祀る高角神社があり、ここにその万葉歌碑が建てられています。

冬期は山頂付近で、木の枝に氷の華が咲いたように見える霧氷が見られる山として、登山者から人気を集めています。



A131

正解は ^{ごしん}五新線

五新線は、五條市から和歌山県新宮市に至る区間に計画されていた鉄道です。杉や檜^{ひのき}の産出地から伐採した木材の輸送は筏流し^{いかだ}に依存していましたが、安定した輸送ルートを確認するために、鉄道の必要性があったのです。

大正11年(1922)に五新線工事が発表されましたが、関東大震災とその後の経済不況で建設開始の足踏み状態が続きます。昭和12年(1937)に着工され、一部の橋脚やトンネル完成まで至りましたが、太平洋戦争がはじまり工事は中断。戦後、五條^{じょうど}～城戸^{てんつじ}間と天辻トンネルが完成しましたが、昭和57年(1982)地方赤字ローカル線の廃止に伴い、五新線の夢は叶うことなく中断されました。一部区間ではバスが走っていましたが、それも廃止され、いまは跡地にその痕跡を残すのみです。

A132

正解は ^{あ の う}賀名生梅林

五條市西吉野町北曾木^{ほくそぎ}にある賀名生梅林は、奈良県三大梅林の1つです。丘陵を麓から中腹までおおいづくように2万本の梅が咲き誇ります。見頃は2月下旬から3月下旬で、さながら雲海のように梅の花がほころび、ほのかな香りが山々を伝うように漂ってきます。

梅林があるのは静かな谷あいの村。かつて後醍醐天皇をはじめとし、後村上^{ちよう}・長慶^{けい}・後龜山天皇ら南朝方の天皇が、再起を願いながらこの地で過ごした、歴史薫る地でもあります。なかでも注目は堀家住宅(賀名生皇居跡)。重要文化財に指定される日本最古級の民家で、春には薄紅色のシダレザクラがあでやかに彩ります。隣には賀名生の里歴史民俗資料館も建っています。

てんちゅう
正解は 天誅

幕末の騒乱の続くなか、尊王攘夷派は、幕府を倒し、新しい日本をつくろうとしました。文久3年(1863)8月17日(新暦の9月29日)、19歳の中山忠光を盟主に、吉村寅太郎、備前国の藤本鉄石を中心とした勤王の志士39人が「天誅組」を結成し、五條の代官所を襲撃します。五條代官鈴木源内ら5名を斬殺し、桜井寺を本陣に「五條政府」の樹立を宣言。桜井寺境内には、鈴木源内の首を洗ったと伝える石の水盤があります。

ところが翌日京都朝廷で「8月18日の政変」が勃発し、朝廷は公武合体派が掌握、尊攘派は京都から追放、天誅組は暴徒の集団と見なされ、9月24日に東吉野で壊滅してしまいます。しかしその行いは明治維新のさきがけと讃えられ、各地に石碑が残っています。

正解は『義経千本桜』

『義経千本桜』は、源平の合戦後、兄の源頼朝に都を追われる義経を軸に、じつは生き延びていた平家の人々を描いた物語。延享4年(1747)に大坂で人形浄瑠璃の演目として制作され、人気を博して歌舞伎として江戸で上演されました。義太夫狂言の3大名作の1つに数えられ、いまなお愛され続ける傑作です。

「いがみの権太」は、「すし屋」の段の主人公として登場します。舞台はいまの下市町。すし屋のモデルになったお寿司屋さんも現存します。「ごんた」というのは我侘な人、という意味でよく使われますが、じつはこの「いがみの権太」に由来しているんですよ。

下市町のご当地キャラ、ごんたくんは「いがみの権太」がモデルです。キリッとした目元が特徴。下市町をアピールするため頑張る町の人気者です。



A135

正解は ^{くす}葛

葛の花は、小さな赤紫色の花が集まった藤に似た花で、茎に近い方から順に、穂先に向かって咲いていきます。控えめな花ですが、古来多くの歌人たちに詠まれ、親しまれてきました。山上憶良は、葛を秋の七草の1つに挙げ、以下のように詠いました。

「秋の野に 咲きたる花を
^{およびお}指折り ^{ななくさ}かき数ふれば 七種の花
」（『万葉集』巻8-1537）

「萩の花 尾花 葛花 ^{なでしこ}撫子の
^{おみなえし}花 女郎花 また藤袴 ^{あさがお}朝貌の花
」（『万葉集』巻8-1538）

冬の間採った葛の根を乾燥させると真っ白な葛粉ができます。葛粉を使った葛餅や葛切などは、吉野・宇陀地方の特産品。葛の根からは「葛根湯」という解熱漢方薬が作られ、葛の花を乾燥させた「葛花」は、二日酔いに効くそうです。お酒好きの方、要チェックです。

A136

正解は ^{よしみず}吉水神社

もとは^{よしみずいん}吉水院といひ、^{てんむ}天武天皇の時代に役行者が創建した僧坊にはじまるといわれています。明治時代に神仏分離が行われ、^{ごだいご}後醍醐天皇がここに南朝の皇居を置いていたことから、吉水神社と改められました。御祭神は後醍醐天皇。天皇の玉座やゆかりの品も神社に伝わっています。また、建築物では書院が初期書院造の代表作として重要文化財に指定されています。

歴史上の有名人ともゆかり深く、文治元年（1185）に追われる源義経らが^{せんきょ}潜居したという「潜居の間」や、その遺品なども伝わります。桜の名所としても知られ、一目千本の名の通り、境内から中千本と上千本の山桜を一望でき、その美しさは、文禄3年（1594）に吉野で盛大に花見をした豊臣秀吉がこの地に本陣を置いたほどでした。

Q137

写真のお寺を根本道場とし、えんのぎょうじや役行者を開祖とする日本独自の宗教は、何と呼ばれているでしょう。



Q138

吉野郡川上村にあるこの神社には、降雨祈願には黒馬、止雨祈願には白馬をたてまつ奉ることから、馬の像が本殿前に建っています。この神社名をお答えください。



Q139

吉野川の北岸にあり、「吉野宮」「吉野離宮」の跡として最有力視されているのは、何という遺跡でしょう。

Q140

吉野町のきよみはら(きよみがはら)浄見原神社で毎年旧暦正月14日に行われる舞の名前をお答えください。

Q141

修験道の行者が真言を唱えながら薬草を煮詰めてつくった真っ黒な薬。まるで人名のような胃腸薬は何という名前でしょう？

Q142

雲海が有名な吉野郡のこの村には、日本三大こうじん荒神の1つ、こうじんしゃ荒神社があります。さて、何村でしょう。

Q143

世界遺産「紀伊山地のさんけいみち霊場とおおみねおくがけみち参詣道」の大峯奥駈道上にある吉野郡十津川村の神社と
いえば、何神社でしょう。

Q144

国の重要無形民俗文化財に指定されている十津川村の民俗芸能は、さて何というでしょう。

しゅげんどう
正解は 修験道

日本古来の山岳信仰と仏教が習合し、日本独特の神仏混濁宗教として生まれたのが修験道です。役行者は、深山幽谷に分け入って厳しい修行をすることで、超自然的な「験力」を得て、人々を悩みや苦しみから救い出す蔵王権現を感じたといわれています。その姿を桜の木に彫り、山上ヶ岳と吉野山にお堂（蔵王堂）を建てて祀ったのが修験道のはじまりです。

金峯山寺の本堂・蔵王堂は、安土桃山時代に建立されました。本堂に安置される金剛蔵王権現像3体は、蔵王堂再建以来、400年以上にわたり鎮座する日本最大の秘仏。三尊の背後にある赤い火焰は仏の智恵、青い身体は仏の深い慈悲を現し、全身は悪魔を払う忿怒の形相を表しています。

にうかわかみじんじやかみしゃ
正解は 丹生川上神社上社

丹生川上神社は、平安時代朝廷での最高の社格である「二十二社」を与えられた神社。現在、川上村の上社、東吉野村の中社、下市町の下社の3社があります。3社の名称は便宜上のもので、社格や位置関係を表しているわけではありません。

天武天皇4年(675)の『類聚三代格』巻一によれば、丹生川の川上に雨水の神様を祀ってはじまったといわれます。『延喜式』には京都の貴船神社とともに「幣帛の外、祈雨に黒毛馬、止雨に白毛馬を加えられる」とあり、それ以来、祈雨には黒毛馬が、止雨には白毛馬が奉納され、のちに絵馬に変わっていきました。いまでも水に関わる人々から厚く信仰されています。

上社はダム建設に伴い平成10年(1998)に山の中腹に移築されました。境内からの眺望が見事です。



A139

みやたきいせき
正解は 宮滝遺跡

吉野町宮滝辺りの吉野川は巨岩奇岩が点在し、白く泡立つ水の流れが素晴らしい渓谷美を見せてくれます。そんな宮滝にある宮滝遺跡からは、縄文時代から近世にかけての遺構・遺物が出土しています。出土した飛鳥～奈良時代の遺構・遺物から、「吉野宮」と「吉野離宮」跡地として、最有力の地です。遺跡の一部は国の史跡に指定されています。

『日本書紀』などによれば、さいめい 斉明、じとう 天武、もんむ 持統、ぶんぶ 文武、げんしょう 元正、しょうむ 聖武の6天皇が行幸した吉野宮と吉野離宮。『万葉集』には「瀧の都」と詠まれ、多くの万葉人を惹きつけました。吉野川の各所は「たぎつ河内」「夢のわた」「川淀」などと詠まれ、きさやま 三船山、なつみ 象山などの周辺の山々、なつみ 夏実（現・菜摘）などの付近の地名も『万葉集』に多く詠まれています。

A140

くずそう
正解は 国栖奏

浄見原神社は、みなみくず 南国栖・吉野川右岸の岸壁上に鎮座する旧村社です。ここで行われる国栖奏は、おうしんてんのう 応神天皇吉野行幸の際に、国栖の人が天皇をもてなしたことに由来するといいます。壬申の乱では、おの 大友皇子と対立したおおあまのみ 大海人皇子（のちの天武天皇）に味方し、歌舞を奏したとも伝わっています。

国栖奏保存会編集の『国栖奏』によると、国栖奏は次のように行くとあります。早朝からしょうしんけっさい 精進潔斎をした筋目といわれる家筋の男たちが、舞翁、つづみ 笛翁、うたい 鼓翁、うたい 謡翁として、舞殿に登場します。そして、右手に鈴、左手にさかき 榊を持った謡翁の謡や、「エンエー（延栄の意か）」の声に合わせ、舞翁が古式ゆかしく舞います。このとき、しんせん 神饌として、古代のごちそうといわれる腹赤のウグイや赤ガエルが供えられます。

だらにすけ
正解は 陀羅尼助

陀羅尼助は天川村^{どろがわ}洞川^{けんい}でつくられている伝統的な健胃整腸剤。キハダ、ゲンノショウコ、ガジュツなどを混ぜて作られる丸薬ですが、昔は竹皮に平たく延べ板状にしたものが一般的でした。

この薬はそもそも大峯^{おおみね}や高野山などに修行する行者の間で作られていたもの。仏の真言である「陀羅尼」を唱えながら薬草を煮詰めていくため、この名前がついたそうです。1300年以前から伝わり、行者らが毎年大寒の日に作っていました。江戸時代には各地でこの薬が精製されたため、どれが本家本元の陀羅尼助^{おおおかえらせんの}なのか、大岡越前守^{かみ}に裁き^{さば}を仰ぐ騒動まであったとか。

「良薬は口に苦し」の言葉どおり、とても苦い薬です。けれど「陀羅尼助じゃなきやダメ！」という愛用者も多いんです。

のせがわむら
正解は 野迫川村

県の南西部に位置する吉野郡野迫川村は、和歌山県伊都郡高野町との県境の村です。村の海拔は最高1344mと標高が高く、夏も涼しい避暑地です。天然同様の条件で養殖されたアマゴの名産地でもあります。

雲海は、周囲を山に囲まれた盆地に起きやすい自然現象。野迫川村で発生しやすく、春や秋が見頃です。朝焼けに染まりゆく雲が海のように谷を覆い、山の頂が島のように顔をのぞかせる絶景は「天空の國」^{くに}ならでは。

標高1260mに建つ荒神社も雲海の絶景ポイントの1つ。日本三大荒神に数えられるこの神社は、火^{かまど}や竈^{まつ}の神を祀り、火を使う職業の人々の信仰を集めています。空海が高野山に大伽藍を開基する際に祀り^{きとう}祈禱したことにはじまるといわれるため、高野山とともに参詣する人も多いそうです。



A143

正解は ^{たまき}玉置神社

玉置神社は標高 1076m の玉置山頂上近くに鎮座しています。崇神天皇によって創建されたと伝えられ、かつては 7 坊 15 ケ寺が点在し、熊野三山の奥の院として修験道の一大勢力を誇りました。神域には樹齡 3000 年といわれる神代杉や常立杉などの老樹がそびえ立っています。

また山頂付近にある末社の玉石社には祠がなく、地表に露出する玉石を御神体としており、原始信仰の名残がうかがえます。社務所は高牟婁院を改築した書院風建築で、美しい襖絵でも知られ、重要文化財に指定されています。

大峯奥駈道は修験者が行き交う修験の道場です。その道中にある玉置神社も含めて、平成 16 年(2004)に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されました。

A144

正解は ^{おおおど}十津川の大踊り

「十津川の大踊り」は、8 月のお盆に行われる華やかでエネルギーな盆踊りです。小原、武蔵、西川地区の 3 地区には室町時代に流行した風流踊りの流れをくむ「大踊り」と呼ばれる盆踊りが伝えられており、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

大踊りは、現在は小原地区から順に、8 月 13 日、14 日、15 日と、日をずらして開催されています。ある者は色とりどりの房をつけたばちで太鼓を打ち、ある者は扇子を使い、ある者は切子灯笼を下げた竹飾りを持って踊ります。地区ごとに踊りの隊列の組み方や動き方、太鼓の持ち方、灯笼のかたちなどが少しずつ異なっており、それぞれに味わいがあります。

いずれも音頭取りの唄にあわせ、夜遅くまで賑やかに、楽しく踊り続けます。